# ブルーベリー・露地(品種:ティフブルー など)

### 千葉農業事務所

### 1 地区名(集団名)

八千代島田地区(農事組合法人 島田)

### 2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 1法人
- (2) 栽培面積 20 a
- (3) 収穫量又は出荷量 0.4 t
- (4) 出荷先又は販売方法 体験農園及び直売

### 3 ちばエコ基準達成状況

区分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬 (成分回数)	1回	3回
化学肥料 (窒素成分量)	3. 3kg/10a	4. 5kg/10a

#### 4 事例のあらまし

農事組合法人島田は、ブルーベリーの摘み取り園を開園するために、八千代市島田地区の水田転換畑(20a)にラビットアイブルーベリー(品種:ティフブルーなど)を中心に定植しました。ブルーベリーは酸性土壌を好むことから定植時にピートモスを畑全面に施用した他、定植後も土壌のpHを調査し、硫黄によるpH調整を行っています。また、土壌水分の蒸発防止、有機物の供給等の目的で樹冠下は木材チップや稲ワラによるマルチを敷いています。さらに、有機質肥料を積極的に施用することで化学肥料の低減を図るとともに、生物農薬を使用することで化学合成農薬の使用を削減しています。

#### 5 背景・動機

農事組合法人島田は「道の駅やちよ」の近隣に位置し、米や大豆生産の他に、イチゴ狩り体験やサツマイモのオーナー制といった観光農園を積極的に行っています。その中で、体験農園の一環としてブルーベリーの摘み取り園を平成19年より開園しました。摘み取りを行う消費者に安全・安心な農産物をPRする目的で、ブルーベリーの「ちばエコ農産物」認証の取り組みをはじめました。なお、体験農園のほか、収穫したブルーベリーは、「道の駅やちよ」の農産物直売所においても販売されています。





収穫前の現地確認時の様子

収穫前のブルーベリー

### 6 栽培方法

### (1) 土づくり

定植前には、園全体にピートモスを施用しました。樹冠下には、木材チップや稲ワラによる有機物マルチを敷いて土壌の乾燥防止の他、有機物の供給による土壌物理性の改善を行っています。列間には緑肥作物(イタリアンライグラス)をすき込み、肥沃な土づくりを進めるとともに、刈り取った草はマルチに利用しています。また、ブルーベリーは酸性土を好むことから、定植時にピートモス(7,000 リットル/10 a)を畑全面に施用して土壌とよく混合するとともに、随時土壌診断を行い、適正な p Hになるよう硫黄粉末による p H 調整を行っています。

### (2) 施肥

有機質肥料を中心に施用しています。また、土壌診断を行い、適正施肥に 努めています。

#### (3) 鳥害対策および病害虫防除

鳥害防止のために、園全体を防鳥網で覆っています。病害虫の発生は少ないですが、マイマイガやミノガなどは、見つけしだい捕殺します。イラガ類の防除には、生物農薬のデルフィン顆粒水和剤(BT剤)を使用しました。近年は、マメコガネの成虫による葉の食害が目立ってきましたが、補殺による防除を行っています。

### ア 栽培管理

作 業 名	実施年月日	
前作収穫終了	平成 22 年 8 月 31 月	
収穫開始 平成 23 年 6 月 20 日		
収穫終了	8月30日	

### イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10a あたり)

使用銘柄(N:P:K)	実施年月日	施用量	全N	化学N
土壤改革 (微粉硫黄)	平成 22 年 11 月 28 日	60kg		
ヘルシー有機 100 特号 (5:6:2)	11月28日	100kg	5kg	0kg
みらい (8:7:7)	平成 23 年 3 月 19 日	60kg	4.8kg	3.3kg
緑肥 (イタリアンライグラス)	3月19日(播種日)			
なたね油かす	5月30日	80kg	4. 2kg	0kg
合 計			14kg	3.3kg

## (イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日
バスタ液剤	一年生雑草・多年生雑草	平成23年4月26日
※デルフィン顆粒水和剤	イラガ類	平成23年7月11日

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

### 7 今後の展望等

栽培期間が浅くまだ幼木のため、ブルーベリーの収量がまだ少ないですが、 今後は収量が増加してくることから、摘み取り園へより多くの消費者を呼び込むことが期待できます。安心・安全な農産物をさらにPRしていくと同時に、 より積極的な販促活動が必要になってきます。また、摘み取り園や直売の他にも、収穫した果実を利用した加工品についても検討しています。

現在、病害虫の発生はそれほど多くありませんが、県内の他産地の状況から、 今後はオウトウショウジョウバエの被害が拡大する可能性があります。オウトウショウジョウバエ対策としては、物理的防除等を組み合わせ、化学合成農薬 に頼らない栽培を持続していく必要があります。